

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家ひた館			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2026年1月5日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数)	0名
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2025年12月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士や機能訓練指導員（理学療法士）が充実している	保育士同士の情報共有を密にし、子どもの小さな変化も見逃さない体制づくりを意識的に行っている。分かり易い声かけを意識している。（制作工程など）利用者一人ひとりの身体機能の変化を細かく評価し、日々の訓練内容を柔軟に調整することを意識的に行っている。	専門研修の参加や外部講師の導入を進め、保育の質を継続的に高める取り組みを強化していく。保育士との連携を深め、生活場面に即した機能訓練プログラムを共同で開発する取り組みを進めていく。療育グッズの補充を行っていく。
2	異年齢との交流がおこなえる。	年齢や発達段階に応じた支援を丁寧に行いながら、異年齢交流の中で個々の良さが発揮できるよう関わり方を意識している。異年齢の児童が自然に関わり合えるよう、活動内容や役割分担を工夫し、互いに学び合える環境づくりを行っている。	異年齢同士で協力しながら行える活動プログラム立案を意識し、協働体験や成功体験をより多く積める機会を増やしていく。
3	おやつフレクリエーションが充実している。	子どもの興味や発達段階に合わせて、調理工程を分かりやすく分担し、楽しみながら参加できるよう工夫している。おやつ作りを通して手指の操作やコミュニケーションの練習につながるよう、声かけや関わり方を意識的に行っている。	季節行事や食育の要素を取り入れた新しいメニューを増やし、より多様な体験ができるプログラムづくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児発の利用者が安心して過ごせる活動スペースがやや狭い。	児発と放ディが同じスペースで活動するため、児発の子どもが安心して過ごせる十分な広さを確保しにくい。体格差や活動量の違いから、児発の子どもがぶつかったり転倒したりするリスクがやや高まっている。	活動時間や動線を見直す。パーテーションや物品の配置を調整し、児発の子どもが安心して過ごせる専用エリアを確保する。体格差に配慮した活動内容やルールを設定し、スタッフがこまめに見守りを強化する。子どもの特性に合わせて環境を整え、危険が予測される場面を事前に減らす工夫を行う。
2	機能訓練指導員のうち、理学療法士は充実しているが、ニーズが高い傾向にある言語聴覚士による専門的な支援がうけにくいい	言語聴覚士（ST）の全国的な人材不足により、配置が難しい状況が続いている。外部STとの連携ルートが確立されておらず、相談・助言を受ける体制が弱い。	地域の医療機関や訪問リハ事業所と連携し、STの巡回支援や助言を受けられる体制を整える。ST以外の職種が、専門性を補完する仕組みを導入する。（言語に関する研修会への参加など）
3	ペアレントトレーニングの充実	職員の知識、スキルを向上させる必要がある。保護者支援よりも日々の個別支援が優先され、ペアレントトレーニング実施の時間が確保しづらい。	スタッフがペアレントトレーニングの研修を受け、専門性を高める。他機関と連携し、必要に応じて外部講師や専門家の協力を得るなどしながら知識を深めていく。